

年 頭 所 感

2011年1月4日
株式会社トクヤマ
社 長 幸後 和壽

100年に一度の金融危機に対し、各国が協調した財政出動により、世界経済は一昨年の中頃から緩やかな回復を見せているものの、欧州の一部の国の信用不安や急激な為替変動、資源ナショナリズムの台頭など、景気の不透明感を増す材料が散在している。日本では、景気減速の三要素である『円高』、『株安』、『デフレ』傾向が解消せず、景気対策の反動も重なり、景気浮揚が儘ならない状況にある。さらに地球温暖化対策税導入とその段階的拡大は、我々化学産業に壊滅的な打撃を与えかねない。

当社の売上高は、昨年初めから横ばい傾向にある。回復基調の世界経済、特に、新興国の旺盛な需要の恩恵を十分に受けていない。これは、当社の海外売上高比率が20%台であり、内需に依存した製品構成となっていることを意味する。日本のGDPの成長率が今後も過去の栄光を追えないなら、内需依存は弱みとなる。当社は体質転換に向けての早急な対策が必要であり、マレーシア計画の着実な推進とグローバル市場で勝ち抜ける製品・技術の開発に全力で取り組む。

3月には、「挑戦と変革」をキーワードにした「100周年ビジョン」の第一ステップである現3ヵ年計画が区切りを迎える。残念ながら収益を含め、主要目標の達成は難しい状況にある。2011年度は、「100周年ビジョン」達成のための具体的目標は据え置きとし、さらなるステップアップのための助走期間と位置付ける。事業戦略、開発プロジェクトの選択と集中、製造現場の徹底的な合理化など、中長期の成長戦略の見直しを行う。第二ステップの新3ヵ年計画は2012年度からとする。

トクヤマのミッションは『ものづくり』。安全には十二分な配慮をしてほしい。現場に奇策はなく、新技術への挑戦と徹底的な合理化あるのみ。技術戦略室を核とした、全社的な技術体系の再構築と技術力向上の組織的基盤が整ってきた。さらに、「100周年ビジョン」実現のための課題克服をテーマとした『挑戦と変革プロジェクト・5ワーキンググループ』の活動も開始した。

今年は、不透明で厳しい事業環境が待ち受けている。この厳しい局面を打開するため、グループ5,400人の一人ひとりが、常に自然体で「挑戦と変革」を意識し行動できる企業風土、トクヤマの次世代と共有できる企業風土を定着させる。八百万の神々から与えられたこの試練を乗り越えて行きたい。

以上